

**喫煙、飲酒、薬物乱用防止につながる  
健康教育と相談活動の充実を目指して**  
～教科指導、生徒指導、保健指導の連携～

鹿児島県立吹上高等学校  
養護教諭 佐藤 文代

### 1 はじめに

本校は、電気科、電子機械科、情報処理科の3学科、全9学級225人の生徒が在籍する専門高校である。開拓・奉仕の校訓の下、各学科の特性を生かしたあらゆる教育活動を通して、自己肯定感・所属感を育み、たくましく生き抜く人材育成を目指している。

### 2 主題設定の理由

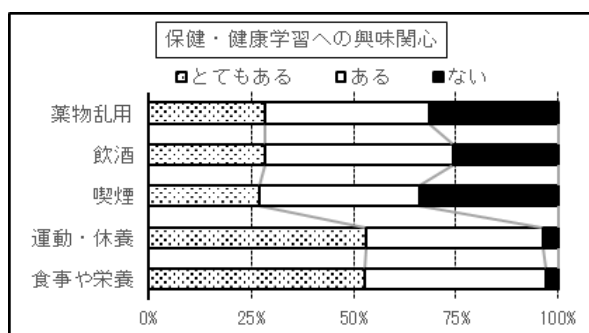
喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導は小学校から持続的に行われており、高校生では、すでに一定の知識を持っていると考えられる。

しかし、適切な意思決定や行動選択ができる実践力については個人差が大きい。また、全生徒に行ったアンケート結果によると、喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する学習への興味関心度は低い。

そこで、健康や安全に関する興味関心を高め、生徒が健康的な行動を選択し、実践する力を育てるためには、様々な教育活動を通しての健康教育及び教育相談や健康相談・保健指導等の相談活動の充実を図ることが有効ではないかと考え、本主題を設定した。

### 3 健康に関する意識アンケート結果から

#### (1) 喫煙、飲酒、薬物乱用に関する興味関心



喫煙、飲酒、薬物乱用の学習について全体の3割近い生徒が「興味関心がない」と

回答しており、他の健康課題と比べ、興味関心度は低かった。

#### (2) 心の健康について

「不安や悩みを誰に相談するか」の問いに対し2割の生徒が「相談しない」と回答した。今年度、3年生を対象に行った別のアンケートでも、3割の生徒が「相談しない」と回答していた。

### 4 教育活動の実際

#### (1) 保健及びその他教科における学習

学年	月：学習内容・単元名（教科）
1	6：生活習慣病とその予防（保健）
	7：喫煙と健康（保健）
	9：アルコールと健康（保健）
	10：薬物乱用と健康（保健）
2	12：心の健康のために（保健）
	5：妊娠・出産と健康（保健）
	7：医薬品とその活用（保健）
3	10：体内環境を維持するしくみ（生物）
	11：命を育む（家庭）
	2：薬物乱用防止教室

#### (2) 薬物乱用防止教室

保健指導係が企画を担当し、毎年2月に日置警察署から講師を招いて開催。全学年を対象としていたが、令和2年度は3年生のみで実施した。

生徒からは「薬物を使用してしまう動機やきっかけは何だろう」、「薬物と知らないで使ってしまったらどうしよう」という感想が聞かれた。

#### (3) 生徒指導

##### ア 教育相談

定期：年2回（5月・9月）

随時：担任面談、生活指導係面談、教育相談係面談及び養護教諭面談等

##### イ アンケート、実態調査

・学校楽しいーと：年2回

・学校生活調査：年5回

- ・その他：インターネット等利用状況調査，教育相談講演会前後のアンケート

#### ウ 教育相談講演会

スクールカウンセラー，外部講師による教育相談講演会を開催している。令和3年度は，若年層ゲートキーパー養成講座として，1，2年生はスクールカウンセラーによる講演会。3年生は伊集院保健所と連携し，外部講師を招いて講演会を開催した。



【SCによる講演会】

#### (4) スクールカウンセリング

スクールカウンセリングは，令和2年度は，9回実施。令和3年度は，12回を予定している。希望者の他，担任や養護教諭からの勧めで面談を受ける生徒も多い。保健室利用が多い生徒や健康面で課題のある生徒に関しては，スクールカウンセラーと連携して対応している。

#### (5) 保健指導

##### ア 保健便り

月1回の定期号と保健に関連する行事に合わせた臨時号を発行している。発行日には，SHRや終礼時に生徒と職員で読み合わせの時間を設けている。



【保健便り世界禁煙デー号】



##### イ 保健室前掲示

生徒保健委員会と一緒に季節や学校行事に合わせた掲示物を作成し，保健室前に掲示。生徒の意見も取り入れながら，ポスターや資料を読む・見るだ

けではなく，参加型の掲示物を意識して作成している。



【保健室前の様子】

#### ウ 健康相談・保健指導

日常の健康観察や出席状況，教育相談保健室利用の様子から，健康相談や個別の保健指導を実施。担任や保健指導係と指導内容や役割分担を相談しながら進めている。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

ア 各教科の年間指導計画が明確になっていることで，関連性を確認し指導を行うことができた。

イ 教育相談から健康相談や個別の保健指導につながる事例が増えた。

〈健康相談・保健指導の実施数 \*延べ数〉

H30：40人 R1：60人 R2：65人

### (2) 課題

ア 時間経過とともに興味関心度は下がるので，繰り返し学ぶ機会を設定するとともに，理解度を客観的に評価する方法が必要である。

イ 家庭との連携を図る取組として，健康に関する情報提供や相談窓口などの情報発信を充実させる。

## 6 おわりに

本校生の7割以上が卒業後の進路として就職を希望している。間近に迫る社会人としての生活を見据え，健康で安全な行動選択や実践できる力，そして悩み，相談し，解決できる力を醸成する健康教育に取り組んでいきたい。